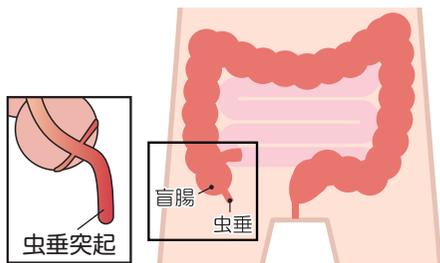


元気からだ! Q&A

「盲腸」ってなに?

千葉県医師会理事

六倉 朋胤 医師



Q 「盲腸」ってどんな病気ですか?

A その昔、『盲腸』と言われていた病気ですが、正式には「急性虫垂炎」といいます。右下腹部にある大腸の始まりの部分について

る「虫垂突起」内では何らかの原因により細菌が増殖し、炎症を起したものが虫垂炎です。2〜3歳頃から認められ、小中高生に多く発症しま

すが、若年者から高齢者まで幅広く認められる病気です。

Q どんな症状ですか?

A 症状は、発熱に伴う腹痛が認められますが、発熱もしくは腹痛の片方が先行することもありません。はじめ腹痛はみぞおちや腹部全体に感じられますが、炎症が進むと右下腹部の痛みが強くなります。

このような症状が認められたら様子を見ず、夜中でも救急病院を受診してください。(炎症が急速に進行する場合は、翌朝までに腹膜炎を発生して命に危険が及ぶこともあります)。

病院では血液検査と腹部CT・超音波検査など、簡単な検査で診断ができます。

Q どんな治療法がありますか?

A 昔は手術をする病気の代名詞のように、手術治療が主でしたが、抗生剤の開発に伴い、早期であれば、今ではほとんど手術をしなくなりました。しかし、消化管の炎症なので、抗生剤治療でも入院して「絶食」にする方がいいと思います。

補足ですが、昔手術が多かったのは、虫垂突起は細長く狭いため、入口が腫れて塞がってしまったり、糞便の塊などで詰まってしまつと中の炎症が急速に進行し、穴が空いたり腹膜炎を起して死んでしまう事が多かったからです。また、手術後に入口を塞いでいる便の塊が多く見つかることから、「スイカの種を飲み込んでしまつと詰まって起こりやすくなる」などという迷信も信じられていました。

Q 「薬で散らす」と聞いたことがあります。どんなことですか?

A 抗生剤治療を、昔は「薬で散らした」と言うこともありましたが、虫垂突起がバラバラに散るわけではなく、炎症が治まるだけで元に戻ります。

従つて、炎症を起した虫垂突起は存在するわけですから、治療後の生活には注意が必要です。暴飲暴食や多量のアルコール摂取・便秘や睡眠不足など、腸内環境を悪くすることは避けるようにしましょう。

手術をしなくても健康に気をつけていれば、「薬で散らした」人の半数以上は生涯再発していません。

✉ 病気や医療に関する質問を受付けております。

千葉県医師会広報係まで ☎ 260-0026 千葉市中央区千葉港 4-1

※個別の病気につきましてのご質問には応じかねますので、ご了承ください。

